

「うばい合えばたりぬ わけ合えばあまる」 相田みつを

岐阜県 浄流寺 北村 雄平

なにかにつけていらん事しいで、兄弟の中でもつとも叱られる回数が多い我が家の問題児は、ご機嫌取りのつもりでお菓子を「お前だけに」とこっそり与えてやっても、すぐに兄弟に配ってしまふ。「せっかく内緒でやったのに」と言っても、「みんなで食べたほうがおいしいじゃん」と平然と言うこいつこそが、じつは我が家でもつともみほとけに近い尊敬すべき高僧なのかもしれない。

もう何年も前の夏休みの話。「へびが鳴いとる！ 父ちゃん、池でへびが鳴いとる！」

子どもたちが、境内にある池でへびが鳴いていると騒いでいた。もちろん、へびが鳴くなどあり得ない。何かの間違いだろうと一笑に付したところ、本当に池のへびのところから「グエツ」と、聞いたことのないような声がした。まさかと思い、子どもたちと池に駆け寄ると、なんと二匹のへびがトノサマガエルの右足と左足にそれぞれ喰らいついて奪い合っているではないか。あの妙な鳴き声はへびの鳴き声などではなく、股裂き状態のトノサマガエルの悲鳴であったのだ。二匹のへびによる、一匹のカエルの奪い合いという残酷ながらもなんと珍しい自然の摂理を親子でじっと観察していた。五分、十分、三十分、互いに一步も譲らないへびとへびとの奪い合いにいいかげんすっかり飽きてしまった我々は、あまりにも暑いので庫裡の中へと引き返してしまった。…………二時間後…………池の様子を見に行くと、なんとへびたちの膠着状態はまだ続いていた。もう精根尽き果てたのか、それとも死んでしまったのか、カエルは抵抗する様子もなければもう声も出さなかった。私は子どもたちを池にもう一度呼び寄せて、一匹の獲物をいつまでも奪い合うへびたちを見せてこう語った。

「見ろ、まだ奪い合いをしているぞ。自分のことばかりを考えているから、結局どちらも腹が減ったままでないければならん。この光景を【地獄】というんだ。しかし、人間にはほとけさまからいただいた智慧がある。おまえたちは、『何事も奪い合えば足りなくなり、分け合えばあまることもあるんだ』と、よく知っておきなさい」。

一匹のカエルを奪い合う二匹のへびのすぐ近くには、たくさんのカエルたちがゲロゲロ、ゲロゲロと鳴いていた。